



第2部：10：20～11：30

〈インタビュー・ダイアローグ〉

「大学と自治体が始めた『地域連携協定』は、両者に何を生み、どう変えるのか？」

登壇者：福岡県岡垣町長

門司 晋

九州共立大学教授

山田 明

聞き手：元飯塚市教育委員会教育長

森本 精造

九州共立大学名誉教授

古市 勝也

〈登壇者プロフィール〉



●門司 晋 福岡県岡垣町長

岡垣町役場に入庁後、地域づくり課長、総務課長、企画政策室長を歴任したのち、岡垣町副町長に就任。令和3年1月から岡垣町長に就任。「現場主義と対話重視」をモットーに、人口減少・少子高齢化社会の中でも、持続可能なまちづくりに取り組んでいる。



●山田 明 九州共立大学スポーツ学部・大学院スポーツ学研究科教授

地域連携推進センター所長。福岡教育大学大学院、九州大学大学院、米国の大学院にて教育学を研究。福岡県社会教育委員、北九州市社会教育委員、福岡県人権研究所理事、日本生活体験学習学会理事。ライフワークはサービス・ラーニング研究。主著は『サービス・ラーニング研究』(学術出版会)、『「市民性教育」研究』(鳥影社)、『未来を拓くスポーツ社会学』(株みらい)などがある。

〈聞き手〉



●森本 精造 元飯塚市教育委員会教育長

福岡県教育庁社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長、飯塚市教育長、飯塚市青少年教育施設サンビレッジ西理事長を歴任。穂波町時代、全公立小学校に「子どもマナビ塾」、「熟年者マナビ塾」の導入、飯塚市では「いいづか市民マナビネットワーク」(e-マナビ)など先駆的行政施策の開発を手掛けてきた。退職後は「学童と学校の連携」(学社連携)に奔走。



●古市 勝也 九州共立大学名誉教授

九州共立大学・九州女子大学・同短期大学生涯学習研究センター所長、九州共立大学スポーツ学部教授、九州共立大学地域連携推進室長を経て現職。日本生涯教育学会生涯学習実践研究所福岡センター長、「西日本『生涯学習御学友』ネットワーク」世話人代表、第34回大会から本交流会の代表世話人を務める。